

平成26年千葉市教育委員会会議
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成26年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 平成26年12月18日(木)

午後2時00分開会

午後3時00分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 和田 麻理
委 員 中野 義澄
委 員 内山 英夫
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 田辺 裕雄 保 健 体 育 課 長 津野 政彦
教 育 総 務 部 長 米満 実 保 健 体 育 課 学 校 給 食 担 当 課 長 伊 藤 稔
学 校 教 育 部 長 磯野 和美 教 育 セ ン タ ー 所 長 遠 藤 悟
生 涯 学 習 部 長 朝生 智明 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 山 本 雅 司
総 務 課 長 石野 隆史 生 涯 学 習 振 興 課 長 増 岡 忠
企 画 課 長 大崎 賢一 中 央 図 書 館 長 松 尾 修 一
学 校 施 設 課 学 校 耐 震 担 当 課 長 高 橋 広 文 生 涯 学 習 振 興 課 科 学 教 育 推 進 担 当 課 長 西 村 安 正
学 事 課 長 小川 彰 学 事 課 長 補 佐 布 施 善 幸
教 職 員 課 長 伊藤 剛 指 導 課 指 導 主 事 中 嶋 の り 子
指 導 課 長 山本 幸人 生 涯 学 習 振 興 課 主 任 主 事 藤 代 邦 彦

書 記 総 務 課 長 補 佐 山本 春樹 総 務 課 主 任 主 事 佐 久 間 暁 子
総 務 課 総 務 係 長 渡 邊 実 総 務 課 主 事 荒 井 博 行
総 務 課 主 任 主 事 杉 山 隆

1 開会

和田委員長より開会を宣言

2 会議の成立

過半数委員の出席により会議成立

3 会議録署名人の指名

和田委員長より中野委員を指名

4 会期の決定

平成26年12月18日（1日間）ということで全委員異議なく決定

5 議事日程の決定

議事日程を全委員異議なく決定

6 議事の概要

(1) 報告事項

報告事項(1) 平成26年第4回千葉市議会定例会について

石野総務課長より報告があった。

報告事項(2) 学校体感デー ～今の学校って、こうなんだ！～ について

石野総務課長より報告があった。

報告事項(3) 平成27年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について

小川学事課長より報告があった。

報告事項(4) 平成26年度研究報告会・研究大会について

山本指導課長より報告があった。

報告事項(5) 千葉市こてはし学校給食センター再整備（改築）事業予定者の決定について

伊藤保健体育課学校給食担当課長より報告があった。

報告事項(6) 千葉市教育センター研究協力員会研究報告について

遠藤教育センター所長より報告があった。

報告事項(7) 第59回千葉市社会教育功労者顕彰について

報告事項(8) まなびフェスタ2014について

増岡生涯学習振興課長より一括して報告があった。

(2) 議決事項

議案第41号 千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉市公民館管理規則の一部改正について

小川学事課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(3) 発言の要旨

報告事項(1) 平成26年第4回千葉市議会定例会について

和田委員長 総務課長、報告をお願いします。

石野総務課長 報告事項(1)「平成26年第4回千葉市議会定例会について」、報告します。

第4回千葉市議会定例会ですが、会期は11月28日から12月17日まで、議案質疑、教育未来委員会、代表質問、一般質問などが行われました。

次に、教育委員会に関する提出議案の審議状況について報告します。

先の教育委員会会議第11回定例会において、議案提出について審議いただいた、平成26年度千葉市一般会計補正予算(第5号)、千葉市立小学校設置条例の一部改正について、千葉市立中学校設置条例の一部改正についてですが、教育未来委員会の審査を経て、12月17日の本会議において可決されました。

次に、議案質疑・代表質問・一般質問について報告します。まず、12月3日に行われた議案質疑についてですが、5人から通告があり、うち1人が教育委員会に関する質疑を行いました。次に12月8日から12月10日に行われました代表質問についてですが、7会派すべてから質問の通告があり、全会派が教育委員会に関する質問を行いました。

また、12月10日から16日に行われた一般質問についてですが、23人から通告があり、うち11人が教育委員会に関する質問を行いました。主な質問の内容はお手元の資料のとおりでございます。

報告事項(2) 学校体感デー ～今の学校って、こうなんだ!～ について

和田委員長 総務課長、報告をお願いします。

石野総務課長 報告事項(2)「学校体感デー ～今の学校って、こうなんだ!～ について」、報告します。

資料の趣旨・概要等にあるように、より多くの方に学校をこれまで以上に身近に感じていただくため、教員が研究報告を行う授業の公開のほか、普段見ることができない学校給食が作られる給食センターの見学や、給食試食会を行い、教育現場に対する理解を深めていただくもので、当日は学校教育をより理解していただくため、地域、家庭、学校のかかわり合いなどについて、参加者と教育委員との意見交換会を開催したものです。

開催日は平成26年11月12日(水)で、内容は、新港学校給食センターで施設見学、給食試食会を行い、その後、寒川小学校で公開授業、市民と教育委員との意見交換会を行いました。

次に、参加者数ですが、当日は30人の市民の方に参加していただきました。

次に、意見交換会での主な意見ですが、「小学校に部活がないので導入してもらいたい」や、「本イベントを通して子どもの教育環境(給食・授業方法・内容・機材)が昔よりもずっとよくなっていると感じた」などの意見が市民の方からありました。

最後に、アンケート項目及び集計結果についてですが、「今までより、学校教育の現状について知ることができた」の項目については、96.7%の参加者から「よくできた」、「できた」と肯定的な回答をいただいています。また、感想等の自由記載欄には、「千葉市の教育について実際に体験しながら理解することができて良かった」など、イベント内容に対して好評な意見が多く見られました。

和田委員長 第1回ということで、事務局の準備も大変な苦労があったと思いますが、大多数の方にご満足いただけたので良かったと思います。

志村教育長 募集定員が40人で応募者数が34人で、結果として30人参加ということなのですけれども、広報の仕方など、もっと工夫すれば集まった可能性があるのでしょうか。数としては適正だったかなとは思いますが、いかがでしょうか。

和田委員長 今後の課題も含めてということです。いかがでしょうか。

石野総務課長 今回の募集に関しては、ホームページのほかは、市の各機関へのポスター掲示などを行いました。当初想定していたよりも、正直申しましてなかなか集まりが悪かった面があります。いろいろ声かけ等もしたところですが、結果的には募集定員に満たないところがありました。次回以降、このイベントについては継続していきたいと考えていますので、PR方法について、例えばターゲットを絞って働きかけをするなり、いろいろ工夫はしていきたいと考えています。

志村教育長 アンケート結果で「本日のイベントを何で知ったか」という設問に対し、「知り合いから誘われた」というのが実際に一番多いので、何か広報の仕方を工夫すればもっと集まったかなと思ったものですから質問しました。

和田委員長 今あったように、ターゲットを絞るというのも非常に参加しやすいと思います。やはり漠然と募集してしまうとなかなか一步を踏み出せないと思うのですが、ターゲットを絞って、例えば未就学児童の地域も更に絞るという形で、回数は重ねなくてはならなくなりますけれども、そういったやり方のほうが今までこのようなイベントに参加しにくかった層への働きかけは効果的なのかなと思います。

内山委員 このような催し物を事務局で検討してもらい、第1回目ですけれども、成功裏に終わったと思います。明石委員の基調講演を含めて、参加された方々に満足していただいたように感じます。今後も、いろいろまだ課題はあると思いますが、ぜひ続けてもらいたいと思います。

和田委員長 今回、市外からの参加もあったということで、これは千葉市の良さをPRするには非常に良かったのではないかなと思いました。もし市外の方で、あんなに千葉市の学校が良いのなら、家を建てる時は千葉市に建てようとか、子どもは千葉市の小学校に入れようとか思っていただけのようなこともあると思いますので、市外への働きかけというのも良いのかなと思いました。

報告事項(3) 平成27年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について

和田委員長 学事課長、報告をお願いします。

小川学事課長 報告事項(3)「平成27年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について」、報告します。

平成27年度千葉市立稲毛高等学校入学者選抜の出願受付を、去る12月11日と12月12日に行いました。志願者数は男子が336人、女子が419人、合わせて755人となりました。募集定員は男女とも40人ずつ、合計80人で、志願倍率は男子が8.4倍、女子が10.5倍、全体としては9.4倍となります。

なお、英文による適性検査I・II、それから英語の発問による面接の受験希望者で、適性検査及び面接、両方を希望する方について、男子はいませんでした。女子で1人おりました。また、英語の面接のみの受験希望者が女子で1人おりました。

参考までに平成26年度、昨年度の入学者選抜の志願倍率を記載しましたが、男子が8.6倍、女子が10.0倍、全体で9.3倍でした。

今後の日程としては、検査の実施、そして選抜結果の発表を行って参りたいと思っています。

内山委員 資料に倍率等のデータがありますけれども、だんだん下がりがつつある傾向です。大体10倍前後に落ちているかと思いますが。小学生が10倍の競争のある場に出ることは、非常に私としては大変なことではないかなと思いますが、優秀な生徒を採用するという意味では、この倍率が高いことは良いことだと思いますけれども、少しその辺は心配な気がします。

和田委員長 市内の子どもたちは、小中学生も数は減ってきているわけですが、倍率が同じくらいということは、中学受験そのものをする子どもたちは、割合としては増えてきているのでしょうか。

小川学事課長 まず、ここ5年くらいの6年生の児童数を調べたのですが、6年生だけとってみますと、およそ8,900人くらいで、これは余り大きな変化はありません。

また、私立の中学に進学した人数、受験した人数については、詳細な資料はありませんが、進学した人数は約750人くらいです。ですから、約8.5%くらいが私立に進んでいます。これも余り大きな変化はありません。

和田委員長 そうですか。

小川学事課長 はい。確かに倍率そのものは下がってきているのですけれども、県立千葉中学校においても同じような傾向があります。学校としては、保護者対象の説明会あるいは学校見学会の機会を通して、このような児童をぜひ募集したい、受けてほしいという話をし、それが保護者に非常にはっきりと伝わった。市の附属中で本当に学びたいお子さんが志願してきていると捉えています。

和田委員長 私立の学校の倍率に比べれば、これは格段に高いわけですよ。そうすると、やはり公立ということで身近に捉えてもらえているのと、学校の教育内容に関して興味を持ってもらえている家庭が多いのだと思います。

倍率が下がってきているとは言っても、極端に下がっているということではないので、分析するのも難しいくらいの状況なのかなと思います。

報告事項(4) 平成26年度研究報告会・研究大会について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

山本指導課長 報告事項(4)「平成26年度研究報告会・研究大会について」、報告します。

資料の目的にあるように、今日的教育課題並びに千葉市学校教育の課題解明を図るため、指定された課題や各学校が設定する研究主題の調査・研究に当たり、その成果をもって本市教育の向上に資することを目的に研究校を指定しています。19校を研究校として指定していますが、今年度実施しました研究報告会と研究大会について報告します。

研究指定校においてはICT活用、小中学校の連携の推進など、今日的な教育課題の解明や、学習指導の充実などをテーマとして研究を推進しています。今回、「確かな学力」の育成を目指した「わかる授業」の推進や、「豊かな心」、「健康な体」を育む教育実践の成果が報告されました。本年度実施した6校の取り組みや授業等の様子を紹介します。

まず、6月26日に「確かな学力を育成するための『わかる授業』の創造」を研究主題として、幸町第二中学校で言語活動の充実を踏まえた「わかる授業づくり」「校内OJTの在り方」について研究の成果が報告されました。木材を使った実験の様子を説明したり、社会科で自分の考えを伝えたりするなど、言語活動の充実が図られました。

続いて10月28日に、「豊かな思考力・判断力・表現力をはぐくむための言語活動の充実」という研究主題のもと、緑町中学校でICT機器の効果的な活用を図った研究報告がされました。理科の実験の様子を示したり、数学の授業ではデータをグラフ化したもの示すなど、生徒が学びを深められるよう、それぞれの学習過程に応じてICT機器の活用が図られていました。

11月には4回、研究報告会が行われました。まず、11月12日には寒川小学校で「かかわり合いを中核とした学校教育」を研究主題として、人、事、物とのかかわり合いに焦点を当てた研究の成果が報告されました。自分たちの住む町を探検し、地域の方とかかわる中で発見したり、理科の学習で自然現象とのかかわりから持った疑問を解決するために行った実験結果を伝えたりしている授業が展開されています。

続いて、14日には幕張東小学校で「自己を拓き、豊かな心をはぐくむ道德教育の創造」を研究主題として、道德の授業を核として、自分の生き方を考えようとする意欲を高める研究の成果が報告されました。よりよく相手の気持ちに気づき考えるために、役割演技を取り入れたり、小グループで相手の考えを聞き合った

りすることで、多様な考えや思いに気づき、互いに認め合うことで道徳的価値に迫る姿が見られました。

11月27日には、こてはし台中学校で「自ら考え、自ら運動に取り組む生徒の育成」を研究主題として、コミュニケーション活動の充実を図りながら、生徒が主体的に運動に取り組むことを目指した保健体育の研究報告会が行われました。ミーティングを通して、生徒が自分たちで練習方法や課題設定、ゲームの分析等を行い、バスケットのゲームにおいて、より主体的に取り組む姿が見られています。

そして28日には、千草台小学校で「自ら考え、共に学ぶ子どもの育成」という研究主題で、算数科において、問題把握の場面や伝え合い活動でのさまざまな取り組みをした研究成果が報告されました。伝え合い活動の一つとして、たくさんの友達に自分の考えをノートを示しながら説明することで、共に学ぶ子どもの育成が図られていました。

今年度も初任者研修の一環として、研究報告会に参加した初任者もいます。「子どもが主体的に取り組むための目的意識の持たせ方、本時の狙いに迫る具体的な手立てが勉強になった」などという声も届いています。

また、教員としての資質向上を目指した若年層教員の参加も多く、本人及び管理職が良き研修の機会と捉えていることがわかります。さらに、授業を公開した若年層教員の成長も実感することができました。

今後、これらの研究成果を広く市内の学校で共有していきたいと考えています。

内山委員 私が一番関心があったのが、こてはし台中学校の体育です。私はバスケットボールをやっていたものですから、どのような授業になるかと関心を持ったのですが、「こんなふうに行こう」といろいろと事前に話し合い、今度は別のチームと対戦するのですが、反省点をきちんと評価しながらやっていました。なかなか面白いと思いました。自分たちの弱点や強いところをそうやって認識して、また次の試合に一生懸命取り組む姿は授業としてなかなか面白いと思いました。良い方法だと思いました。

和田委員長 チームの中で発言をしない子がいないほど、すべての子どもが反省点を述べたり、自分の意見を述べたり前向きなことを言っていましたね。

内山委員 それもボードに書いていました。言葉を交わすだけだと、いい加減になってしまうのです。ボードに書いて、自分たちの主張を確認し合うという、これもまた良いと思いました。感心しました。

和田委員長 なかなかあの授業に至るまでには大変な下積みがあったのだと思います。全部の学校に同様な授業を行うのもまた難しいのかもしれませんが、もちろん参考になる点も多いと思いますので、今後広めていってほしいと思います。

中野委員 幸町第二中学校と寒川小学校を見せてもらい、確かに考える教育というものは、今まで我々のころにはなかったようなもので、非常に良いかなと思うのですけれども、その一方で、考えるにはやはりもともとの基礎知識が必要なので、覚える授業や教育もやはり大事なかなと私は思っています。そちらもしっかりやってほしいと思っています。

和田委員長 そのとおりだと思います。よろしくお願いします。

私もそれぞれの学校で感心すること、子どもたちの様子を見て嬉しくなること、多々ありましたが、私にとって一番インパクトが大きかったのは、緑町小学校の生活科の授業でした。1年生が体育館で本物の幼虫やカタツムリなどいろいろなものを実際に観察しながら学習していましたけれども、子どもに「カブトムシの幼虫をどうして選んだの」と聞いたら、「ほかのはこのまま姿が変わらないけれども、カブトムシの幼虫は姿が変わっていくから面白いと思った」という説明をしてくれまして、なかなか自分でしっかりした考えをそれぞれ持っているのだなと感心しました。そして、ミミズをなでている様子を見て大変衝撃を受けましたが、最初からできたというわけではないということです。多分あの子どもたちは自分たちが保護者になっても、子どもたちが虫を触ることを抵抗なく一緒に生活できると思いますので、生涯を通じての良い体験をあの授業でできたなと思いました。

報告事項(5) 千葉県こてはし学校給食センター再整備（改築）事業予定者の決定について

和田委員長 保健体育課学校給食担当課長、報告をお願いします。

伊藤学校給食担当課長 報告事項(5)「千葉県こてはし学校給食センター再整備（改築）事業予定者の決定について」、報告します。

平成26年5月から実施方針等の公表を行い、8月に入札の公告、9月に入札参加表明書・入札参加資格確認申請書の受理を2

グループから行ったところです。入札参加資格の確認の結果通知を2グループに対して市から通知をしました。10月に入り、入札辞退届が1グループから提出され、実際、入札に参加したのは1グループで、入札及び提案資料の受理を行いました。12月に千葉県PFI事業等審査委員会において審査を行いまして、事業予定者を東洋食品グループと決定したところです。

審査内容の詳細については、平成27年1月の下旬ごろの公表を予定しています。

落札金額については、68億9,067万5,000円に物価変動の増減や消費税を加算した額となります。

事業概要については、平成27年度から平成28年度まで建設等を行い、平成29年4月から提供開始し、平成43年度までの17年間の事業となります。今後、平成27年第1回千葉県議会の定例会に契約議案を提出する予定です。

中野委員 ここではし学校給食センターの対象校が15校ということなのですがけれども、ほかの大宮学校給食センターと新港学校給食センターが受け持つ対象校数を教えてもらえますか。

伊藤学校給食担当課長 新港学校給食センターについては中学校18校です。大宮学校給食センターについては23校です。今のところはこの予定数ですが、実際に提供時にはまたクラス数も変わりますので、そのときは対象校の見直しを行う予定です。

和田委員長 平成29年の4月から提供が開始できるということで、3つのセンターで提供するようになるということですね。

伊藤学校給食担当課長 はい、その予定です。

和田委員長 わかりました。

報告事項(6) 千葉県教育センター研究協力員会研究報告について

和田委員長 教育センター所長、報告をお願いします。

遠藤教育センター所長 報告事項(6)「千葉県教育センター研究協力員会研究報告について」、報告します。

教育センターでは12月5日(金)に新宿小学校分教室において、11月1日に導入したタブレットPCを活用した授業と新宿中学校教諭による専科授業を展開し、その後タブレットPCを活用した学習に関する研究等についての研究報告をしました。

まず、タブレットPCを活用した授業ですが、タブレットPCは授業の内容や形態によってグループで1台使ったり、1人1台使ったりなど柔軟に活用することができます。土地のつくりと変

化の学習では、タブレットPCを各グループで活用しました。地層をモデル的に捉えるために、礫、砂、粘土を水で流して水槽の中に縞模様をつくる実験をしました。今まではこの実験をしたときだけしか観察することができませんでした。タブレットPCの動画機能を活用することにより、繰り返し見たり、スローで見たりする中、地層のでき方や層のできる違いなどについて理解を深めることができました。

水溶液の性質を調べる学習の中では、タブレットPCを一人一台活用しました。アルミニウムを塩酸に溶かして蒸発乾固させたときに出てくる白い粉について、個々、一人一人のイメージをタブレットPCの中に図や文章で書き表わせるようにしました。共同学習用のソフトを使うと、一人一人が作成したイメージ図や記述した理由が教諭用のタブレットPCに送られ、その画面を児童が自分の意に沿って見ることができます。そのため、友達の考えをすぐに共有することができ、活発な話し合いを促すことができました。

次に、新宿中学校による専科授業についての説明です。ご承知のように、新宿中学校内に新宿小学校分教室があります。その利点を生かして、兼務発令されている中学校教諭が小中の学びの連続性を見据えた学習の一つとして6年生の専科授業を行っています。音楽ではリズムアンサンブルの学習を、図画工作では日本絵画の良さを感じ取る鑑賞の学習を展開しました。なお、音楽、図画工作とも、年間通してすべての学習を専門性の高い中学校教諭が行っており、子どもたちの技能と意欲の向上に効果を上げています。

研究報告では、最初に教育センターの研究協力委員会の通年講師である千葉大学の藤川講師からICT利活用についてのお話を3ついただきました。1つ目がICTの活用にはコストや手間がかかるので、大きなメリットがあってこそ活用する必要性が出てくること。2つ目として、ICTは空間や時間の制約を超えることができること。3つ目として、ICT機器で、今できなくても、近未来には実現できるという変化を前提に考えていくこと。このことを踏まえて、ICT機器を活用した授業に取り組んでほしいということでした。

次に、研究協力委員会の担当指導主事による研究報告で、千葉市外からの参加者も多数いることから、前半は千葉市の教育情報

ネットワーク施設と、新宿小学校分教室に導入したタブレットP CやI C T機器についての説明をしました。後半は研究協力委員会の委員によるタブレットP Cを活用した授業や新宿小学校分教室の公開した授業などについて報告しました。タブレットP Cを活用した事例としては、中学校では社会科、理科、英語、小学校では生活科や理科の実践を紹介し、これまで探ってきたタブレットP Cを活用した授業の可能性や、共同学習の有効性について説明をしました。参加者からは、「タブレットP Cの特質を生かした授業を展開され、参考になった」、「タブレットP Cは共同学習を進める上で非常に効果的な活用ができるということを感じ取った」などの感想が得られました。研究のまとめとして、実践した中でタブレットP Cを活用したことにより、学習した内容がより理解でき、自分の考えを表現しやすくなった、あるいは友達の影響が捉えやすかったと、多くの児童生徒がこのように答えていました。タブレットP Cを活用した学習は内容の理解、共同学習の効果から見て、非常に有用であるということが見えてきました。課題は藤川講師からご指導いただいた3つのポイントを軸に、さらに効果的な活用方法や指導方法を開発していく必要があるということです。次年度も引き続き本研究に取り組んでいく予定です。

内山委員 私はこれに参加できなかったのですが、教科全体で見てどのくらいのウエートを占めているのか教えてください。全教科に使っているのか、あるいは一部の教科に狙いを定めてやっているのか。それから、例えば45分、50分の授業時間内にどのくらいのウエートを占めるか。心配なのは、教諭はぱっと子どもたちの様子がすぐわかるかもしれませんが、子どもたちは、タブレットP Cばかりさわって、話し合う場面が少し制約されるのではないかという心配があるのですけれども、その点いかがでしょうか。

遠藤教育センター所長 それについては、やはりいろいろな課題があると思います。11月1日にモデル校としてタブレットP Cを導入しましたので、この研究を深めた上、その利点・欠点をしっかりと把握し、今後の展開に生かしていきたいと思います。ともかく、やはりバランスをとっていかなくてはいけないと思っています。

内山委員 わかりました。

和田委員長 先ほど中野委員からもありましたけれども、基礎的な知識と

さらにコミュニケーションする、考える力などを身につけることにプラスしてICT機器も加えてということになると、すべてのバランスをとっていくのは本当に大変だと思います。先ほど所長から藤川講師のご講義についていろいろありましたけれども、良いところだけではなくデメリットについてもお話がありましたので、今後、本当に慎重に研究してもらいたいなと思いました。

やはり私も、一部分しか授業を見られなかったのですが、最終的にどうなったのかがわからなかったのですが、「ミライシード」というソフトを使っていたかと思うのですが、「私のノート」というところにタッチペンで書くとそれがそのまま活字に変換されるようになっており、その変換されたものを「みんなの広場」というところにアップすると、全員の考えが「みんなの広場」にアップされ、教諭もそれを見られる。教諭がそれを、考え方が同じような子どもたちで分類ができるという、非常に手段としては面白くて使いやすいものでした。それをコミュニケーションというところや授業にどのように結びつけていくのかという問題や課題は、やはり大きいと思いましたが、あの授業の中では最終的にそのコミュニケーション、発表するということも行われていたのでしょうか。

遠藤教育センター所長 指摘のとおりです。やはり子どもたちの考えやノートを全部共有するにはどうすれば良いかという非常に難しい課題がありました。これを準備することは非常にメリットがあるだろうということで使いました。もちろん最後は、みんなに見えるような画面を利用して説明という形になっていますので、これはこれでみんなの意見をどのように集約し、どうやって自分の意見と比較していくかという課題があると思います。話すとか聞くということについては、多少時間的にやはり足りない部分もあると思いますけれども、それについては先ほど内山委員の指摘もあったように、やはりその単位時間や単元、年間でも考えていかななくてはいけないと思いますので、そのようなことについてバランスと重点を決めて指導に当たっていかなくてはいけないということも含めて次年度の課題であると思っています。

和田委員長 新聞記事の中でも随分といろいろ取り上げてもらったのですが、その中でも「普段余り発言のない友達の意見がわかって良かった」というコメントがあったのですが、それで良いのかなと少し思った部分もありました。発言し、しゃべってくれてこそ通じ

合うのに、書いたものでわかり合って良いのかなというような気持ちも残りましたので、おっしゃるようにバランスよく進めてもらえたらと思います。

それから、藤川講師と話をしていた中でもあったのですが、どのタイミングで何をどれだけ導入するかというのは大変難しい問題だと思います。その見極めも、例えば、今この同じ機器、タブレットPCを全校全生徒に配備するということは不可能であるし、そうすると何年か先にまたそれを全部変えなければいけないなどということもありますので、そのあたりの見極めも、もちろん重々承知だと思いますけれども、研究を重ねてもらいたいと思います。

もう一点、専科授業ですが、これも非常に興味深く見ました。やはり6年生になるとあのくらいの専門的な授業を子どもたちは、しっかり食らいついて授業として成り立っていきけるのだなと感じました。教諭が予想しないような難しい言葉が子どもの口から出てきたりと、私も驚かされましたけれども、やはりそれは新宿小学校6年生のあの環境ならでは、できた授業だと思いますので、今後もその環境をうまく使ってもらえたらと思います。

中野委員 私は出席できませんでしたが、ただ、中学校の教諭が小学校6年生に教えるというのは、今言われている小中一貫教育に一步近づいた感じで、非常に良かったと思いました。

報告事項(7) 第59回千葉県社会教育功労者顕彰について

報告事項(8) まなびフェスタ2014について

和田委員長 報告事項(7)及び報告事項(8)については、関連があるため一括して説明を行うこととします。生涯学習振興課長、報告をお願いします。

増岡生涯学習振興課長 報告事項(7)「第59回千葉県社会教育功労者顕彰について」及び報告事項(8)「まなびフェスタ2014について」、一括して報告します。

まず、第59回千葉県社会教育功労者顕彰ですが、今年度はまなびフェスタ2014の開催に併せて12月6日(土)に生涯学習センターにおいて執り行われました。受賞された方は個人の部が60人、団体の部が3団体で、功績概要等の詳細については資料に記載しているとおりです。当日は受賞者を代表して個人の部2人、団体の部1人に感謝状を贈呈したほか、来賓を代表して藤代副市長、福谷市議会副議長から祝辞がありました。また、セレ

モニーの締めくくりとして、元稲毛区公民館運営審議会委員の委員長、地引昌子様から受賞者を代表して謝辞をいただいたところです。

当日ですが、最後に団体の部を受賞されたフラ・アロア様よりフラダンスを披露していただきました。なお、12人の受賞者が欠席となりましたが、皆様方は活動をされている方々なので、全員が出席するのはなかなか難しいと思いますが、この辺が少し課題だと考えています。

次に、まなびフェスタ2014についてですが、先月の教育委員会会議の中でも報告しましたとおり、12月6日、7日の2日間、生涯学習センターにおいて開催しました。今年度は昨年度と比べて57人増の1万1,239人のご来場をいただきました。また、参加団体数は昨年と比べて4団体減の56団体でした。

特別講演・コンサートでは、淑徳大学の北野大教授から、「食と水の安全性」をテーマに、笑いを散りばめながらわかりやすいご説明をいただきました。そのほかテノール歌手の大澤一彰氏による「いま聴きたい世界の名曲」、テノール、ピアノ、マンダリンのすばらしい歌声や演奏を聴かせていただきました。また、「やすらぎのアトリウムコンサート」ではオペレッタ「河童譚」、千葉県芸術文化新人賞を受賞した村松稔之氏によるカウンターテナーコンサート、クリスマスメドレーなど、会場が一体となって盛り上がりました。

次に、体験型イベントですが、子どもから大人まで参加できるさまざまなものを用意しました。おりがみ教室、染めて作るアートフラワー、多色ずりの木版画などの体験をしたり、加曽利貝塚の関係で、貝のアクセサリーやアンギン編みのコースターを作ったり、縄文パズルを作ったりしました。

また、アトリウムステージでは、日ごろの活動成果の発表として、演奏や歌謡、踊りが披露されました。ミュージックベルの演奏や、「きらめきの女声コーラス」、「ゴスペル クリスマスソング」、「世界に残したい長唄の名曲」、江戸伝統芸の「かっぼれ・南京玉すだれ」、沖縄の「エイサー」などが開催され、このほかにもさまざまな講座や楽しい催しがたくさん開催されました。その他、「省エネ！節電！上手な電気の使い方」、「科学工作で楽しもう！」、「あなただけのビデオづくり」、「詩の朗読会」、外では新鮮な野菜や海苔などを千葉市園芸協会が販売しま

した。

参加者の傾向ですが、アンケートをとってしまして、例えば北野大氏の講演では、今集計した段階では受講者が216人ほどでしたが、そのうちアンケートに回答いただいた方が159人でした。その結果、81人の方が60代ということで、やはり高齢の方が多いいいことでした。ただ、その分、体験型ということで世代を越えたイベントにしていきたいと考えてしまして、普通の体験型のほうは子どもが多く参加してました。

内山委員 私も2日間現場を見まして、北野大氏がどのようなお話をされるかなと思いい、非常に興味がありました。なかなか話題が巧みで面白かったです。勉強になりました。これは、参加者は抽選になったのですか。

それと、もう一つ、テノール歌手のすばらしい歌声、良かったですね。そういった意味で、そのような外部からの講師なり、専門の方々の発表も良いんですけども、やはり一般市民の方々がそれぞれいろいろな形で活動されてますね。日本の文化の全体像がわかるような気がしました。このようなものはぜひこれからも続けて、より多くの方が参加されるように願いたいです。

増岡生涯学習振興課長 特別講演の応募の件ですけども、応募状況としましては定員の1.4倍の応募がありました。ただ、定員を上回る数の決定通知を出したのですけれども、結果としては少し定員を下回ってしまったという状態になってしましましたので、もう少し工夫が必要かなと考えています。

それから、大澤氏のテノールコンサートなのですけども、定員の2.16倍の応募がありました。これも少し定員を上回る形で決定通知を出したところですよ。

和田委員長 周知方法は市政だよりと、まなびフェスタのチラシとポスターと、インターネットということですよ。

60代以上の方が講演をお聞きになったということは、何を見ていらしたのでしょうか。もともと生涯学習センターをお使いになっている方も多いいいことなのですよ。

増岡生涯学習振興課長 本講座を何で知りましたかということでアンケートをとっているのですけれども、「講座イベント情報」という回答が一番多いいです。その次に、ポスター、チラシが多いいい形ですよ。

和田委員長 「講座イベント情報」というのはホームページということですよ。

藤代生涯学習振興課主任主事 「講座イベント情報」というチラシがあり、それを関係各所に配布していました。

和田委員長 紙ベースでご覧になった方は高齢の方が多いということですね。

藤代生涯学習振興課主任主事 そうです。

志村教育長 この1万1, 239人という来場者の数の中には子どもも入っているのですか。それとも大人だけなのか、わかりますか。

増岡生涯学習振興課長 すべて入っています。

志村教育長 ということは、子どもも入っているのですね。

増岡生涯学習振興課長 はい。

志村教育長 これは、もう一回少し考えたいのだけれども、子どもたちを対象とすることも、もちろん成果発表の場なので良いのですが、事業の目的として、例えば公民館などいろいろなところでいわゆる生涯学習をしている人が集まって交流することが主なのか、あるいは、そのようなことを通して、生涯学習をまだ余り積極的に取り組んでいない市民の方たちに紹介し、仲間づくりというか、「生涯学習をもっと一緒にやりましょうよ」ということを主として狙うのか、それとも、発表として子どもたちに見せてあげる場なのか、その辺のところは少し、ぼやけているような気がするのです。本当は交流なのか、それとももっと参加者が、生涯学習に取り組む市民が増えていくことを狙っているのか、その辺のところをもう一回教えてもらいたいのです。

やはりPRの仕方について、もう一回考えていかないと、これは頭打ちになる可能性が非常にあるような気がするのですが、その辺はどうですか。

増岡生涯学習振興課長 参加団体の要件として、市内で1年以上活動されている団体になりますので、そうするとやはり発表の場という目的があります。ただ、それを通して周りに周知するという点で、それを見て学びのきっかけにしてもらえればという点もあるのですけれども、確かに、その辺少しぼやけている部分がありますので再度整理する必要があると考えています。

志村教育長 公民館では、公民館まつりとして発表もそれぞれ結構実施していて、その中でピックアップして参加する方もいるのだけれども、やはり若い世代などがもっとこの生涯学習に自分から積極的に取り組んでもらいたいなという感想を非常に持つわけです。そうすると、そのための何かきっかけづくりのようなものが必要だ

と思います。北野大氏の講演などは多分そのような目的があるのかもしれないけれども、それなのに半数以上が60代だというのは、何か残念な気がしてならないです。

増岡生涯学習振興課長 実際は、10代が1人、30代が8人という状況です。

志村教育長 30代から来ているのですね。

増岡生涯学習振興課長 はい、来ています。

志村教育長 そのような世代がもっと誘い合って、出てくれると良いのですが。

増岡生涯学習振興課長 そうですね。60代が81人で、次に多いのは70代で47人という形になりますので、やはり少し年齢が高い層です。もう少し若い方にも聞いていただけるととても楽しいお話だったので、その辺もったいないと思いますし、確かにそのような認識があります。

和田委員長 志村教育長が言うように、公民館まつりとは少し違うものだと私は考えていたのですが、開催目的を見るとやはりとても盛りだくさんになっていて、成果発表の場でもあり、交流の場でもあり、生涯学習の普及振興も図るということなので、もちろんそれは全部必要なことだと思うのですが、やはりその中でもどこにウエートを置いていくかで今後の展開が変わってくると思います。もちろん発表の場ではあるけれども、生涯学習センターの役割を考えたときには、やはりその生涯学習の普及ということをより多くの人たちに一生を通じて学んでいただいて、それを地域に還元することを目的として、その方向で考えてもらえたら良いのではないかと考えます。

内山委員 先ほど、志村教育長が言ったことは、大変大切なことと思います。若年層の感じる魅力というものがどのようなものなのか私は良くわかりませんが、高校生、中学生の姿はほんの1人、2人という感じなのです。これもある程度限界があるかもしれませんが、もう少しその辺を研究し、やはりこの倍くらいの参加数が欲しいですね。これからの研究課題だと思いますけれども、よろしくお願いします。

和田委員長 やはり大人になって、例えば会社を定年退職してから趣味とか生涯学習を探そうと思うとなかなか難しいかもしれませんので、その準備として30代、40代くらいから何かに取りかかるというような機運をぜひ千葉市全体で持っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

議案第41号 千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉市公民館管理規則の一部改正について

和田委員長 学事課長、説明をお願いします。

小川学事課長 議案第41号「千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉市公民館管理規則の一部改正について」、説明します。

今回の改正は幸町小学校及び花見川中学校の設置並びに川戸中学校、有吉中学校、磯辺小学校及び磯辺第三小学校の通学区域の変更に伴う所要の改正を行うために、規則の一部を改正しようとするものです。

今回の通学区域の変更に関する規則の一部改正については、先の平成26年第4回市議会定例会において、千葉市立小学校設置条例及び千葉市立中学校設置条例の一部改正案が可決され、幸町第一小学校、幸町第二小学校を廃止し幸町小学校を設置すること、さらに、花見川第一中学校、花見川第二中学校を廃止し、花見川中学校を設置すること、併せて、緑区の平山地区及び美浜区の磯辺地区の通学区域を見直すことによるものです。

統合後の幸町小学校の通学区域は、幸町第一小学校の学区と幸町第二小学校の学区を併せた幸町2丁目1から24番と、新港地区になります。花見川中学校の通学区域は花見川第一小学校区、花見川第二小学校区、花見川第三小学校学区、そして柏井小学校の学区、及び花島小学校の学区を併せたものとなります。また、緑区の平山地区の中学校区域、通学区域の見直しを行い、現在、平山小学校の学区が、川戸中学校の学区となっていますが、実情に合わせて、それを有吉中学校に変更するものです。また、美浜区の磯辺地区においては、大規模開発が予定されている磯辺5丁目の一部を磯辺小学校の学区から磯辺第三小学校の学区に変更します。

なお、通学区域の変更前後の学校の位置と学区の範囲については、参考資料に図で載せていますのでご参照ください。

それから、この通学区域の規則の改正に伴い、公民館管理規則の別表の中に花見川公民館の所管区域がありますが、これも花見川第一中学校、第二中学校となっていますが、それを市立花見川中学校通学区域と改めます。

規則の施行期日は平成27年4月1日を予定しています。

(1) 次回第1回定例会は、平成27年1月21日（水）午後2時より開催することと決定した。

8 閉会

和田委員長より閉会を宣言